

100周年を迎えたMAEDAが挑戦する社会課題 ～総合インフラサービス企業とは、何か。

当社創業の1年前である1918年、我が国は工業生産額が農業生産額を上回り、工業国としての一步を踏み出していました。産業を支えるための電力や水、人や物資が行き交うための道路や鉄道などを、いかに良く、早く、安く建設し、日本の発展に貢献するか。それが、当時先達が行った社会課題であり、私たちMAEDAの挑戦でもありました。

現代の日本社会における社会課題は、少子高齢化と労働人口の減少、それに伴う担い手不足の深刻化など、100年前のそれとは大きく異なっています。さらに、気候変動の影響や、格差などを理由としたテロの台頭、ICT化によるデータ至上主義到来の恐れなど、世界はより複雑な課題を抱えています。

これらのうち、我が国において、社会へ最も大きな影響を及ぼしている課題は人口減少であると私たちは考えています。この課題に対し、私たちはどのような解決策を導き出せるのか。そのヒントは、建設会社が得意とする、人材や企業、資機材を結び付け一つのことを達成する一つまり、オープンイノベーションの基盤ともいえる能力にあります。この能力と、これまで培ってきたエンジニアリング力を武器に、この大きな課題に正面から向き合う。そのために、CSV-SS[※]経営によってこれから10年=NEXT10でめざす新たな姿、それが“総合インフラサービス企業”です。

ここでいう「インフラ」とは「構造物」ではなく、「生活基盤としてのインフラ」を意味しています。多くの経験を積み重ねてきた「請負」と、ここ数年にわたり挑戦してきた「脱請負」を融合させた、新たな建設サービス。請負の上流である事業投資や開発、下流である運営や維持管理へと事業領域を拡大、強化し、より多くの社会課題にアプローチし、解決策を提示する。そうした姿を私たちは“総合インフラサービス企業”と名づけました。私たちMAEDAは、総合インフラサービス企業として、現在の日本が抱える人口減少をはじめとしたさまざまな社会課題に対し、インフラを核に解決策を社会の皆さまに提供したい。それにより、すべてのステークホルダーからの信頼を得たいと考えています。

この「信頼」、そして「挑戦」というキーワードは、私たちの社是や創業理念にも表れている、創業時から変わらないMAEDAのDNAともいえるものです。創業100周年を迎え、この変わらぬDNAとチャレンジ精神を土台に、私たちMAEDAの新しい挑戦の旅がはじまっています。

※ Creating Satisfactory Value Shared by Stakeholders

